



第 17 回交流会 「ホタルを見にいこう！ 2019」

2019 年 6 月 2 日 (日)

参加者 大人 20 人 子供 6 人



16 時三崎口駅集合。久しぶりに子供の参加が多く、迎えるスタッフもウキウキ！引橋までバス移動。

三崎高校跡地にいよいよ商業施設ベイシアが完成し 5 月末から営業を始めた。2階には市民交流センターと小網代の森インフォメーションスペースが6月からオープンする予定。国道を渡る道は拡幅され、交差点はその名も『小網代の森入口』と様変わりしていた。

水道広場で打ち合わせをして、森に入る。とたんに、テイカカズラの甘い香りに包まれる。森じゅういたるところで高い木に絡まり、その白い花は滝のよう。

クモ好きの少年が次々にいろんなクモを見つけていく。「蜘蛛の子を散らす」ようすも観察。したたるような緑の中、フキバッタやアサヒナカワトンボと出会う。

前回の交流会で見たギンランの花は実になっていた。またコナラの葉っぱの不思議な虫こぶ、ナラメリンゴフシにはいくつも穴があいていた。ナラメリンゴタマバチが羽化して飛び出したようだ。このハチは次に地中の根に卵を産みナラネタマフシという虫こぶを作る。こうして葉と根に交互に巣(虫こぶ)を作る変った習性があるということを知る。面白いけど、何というややこしさだ！！

ホトギスやシュレーゲルアオガエルの鳴き声も賑やかで嬉しい。ヤマユリの蕾を発見。どうか無事に咲いてね。ヤナギテラスで小休止。水分補給とお菓子をちょっぴり。さて、と出発すると小雨が降り出した。宮ノ前峠を抜けてトイレ休憩。神社前を通って漁港の栈橋近くで海を見ながらお弁当と考えていたのだが、急きょ手前の漁具倉庫の底をお借りすることにした。

雨を避け、各自軽食をとる。例によってさまざまなお菓子がまわってくる。お腹を満たしたところで、今回は少しホタルの勉強を。

まずは K さんによる紙芝居「ゲンジボタルのゲンちゃん」(写真/作 今森光彦 教育画劇)の上演。次に M さんによる絵本「科学のアルバム ホタル 光のひみつ」(栗林慧 著 あかね書房)の読み聞かせ。この本は子供向けとは言っても、われわれ大人も知らないことばかり。ホタルの一生の生活史を詳しく勉強した。それを踏まえて、今度は M さんによるホタルのクイズに、大人も子供も集中。その勢いで「ホーホーホタル来い！」の大合唱。さらに「蛍(蛍の宿は川端柳……♪)」へと続くが、こちらはどうも古希を過ぎた人しかよく知らないようで、全体の 3 割ほど



の方々がひとときわ声を張り上げ、大盛り上がり。聞く側も、なるほどホタルの飛ぶ環境が歌われていると納得。

ちょうど 19 時となり、再び宮ノ前峠入口から森へむかう。いつの間にか、雨もやんだようだ。

入ってすぐの南の谷付近から光り始める。パトロールの方が、「だんだん増えていて、昨日は 1000 を数えた。今日あたりが最大値かもしれない」と教えてくれる。なるほど今日は好天ではないが、ホタルの出は多そう。水道広場集合を確認し、それぞれの歩みでホタルの光を求めて暗闇の森へ。

例年、ヤナギテラスからまん中湿地にかけて集中して見られたが、今回は南の谷から引橋入口の階段中央付近まで、まんべんなく分布しているようだ。所々で立ち止まり、ほうっと息を吞んで光の饗宴を楽しんだ。

水道広場で感想を言い合って、簡単な反省会を終える。真っ暗ななか、バス停に向かって登っていくと、いきなり Beisia と大きな赤いネオンが真正面に現れ、一瞬自分が街なかにワープしてしまったような奇妙な感覚におそわれた。

記: 松原あかね 写真: 浪本晴美

●●● ご参加の皆さまからメッセージをいただきました ●●●

T.K

以前にホタルの観察に来た時に比べて、大分数が増えているのと、それから見える範囲が奥の方まで、すごくホタルが森全体に増えているなと感じました。とても楽しかったです。

森全体にホタルが散らばっていて、個数としたらちょっと少ないかという気はするのですが、でも、生息範囲が広がっているのが、とても嬉しいなと思いました。

Y.M

A.K

ホタルはきれいだったんですけど、人が多かったので、ちょっと新宿の駅を歩いているような気分になりました。

初めてあんなにたくさんのホタルを見ました。感動しました。ありがとうございました。

K.Y

A.T

小学校 3 年生です。今日は、とても、ホタルを見られて楽しかったです。

未来永劫、このホタルが小網代の森を飛び続けることを願っています。

K.M

C.B

たくさんの人がこういうことを見て、自然を守ったら、嬉しいですね。本当に、これは珍しい。これが珍しくなくなればいいですね。感動しました。

久しぶりにホタルを見て、こんなにホタルってきれいだったのだと、改めて思いました。とても良かったです。ありがとうございました。

T.A

H.T

歩くのは疲れたんですけど、ホタルがたくさん見られて良かったです。ありがとうございました。

子どもたちがたくさん来てくれて、このホタルの夕べ、雨に降られたけれども、ホタルが飛んだことをずっと覚えてくれるといいなと思いました。ありがとうございました。

A.M

K.S

今年は、なんか、谷全体にバラっとですけれど、出たなという感じですね。いつもは固まって、もあつと出ていたのが、今回は、バラっとパラパラ出ましたという感じでした。でも、見られて良かったです。ありがとうございました。

今日は皆さんとこれとても良かったです。いろんなお勉強もさせていただきました。個人では何回か来たことがありますが、ホタルが飛んで、チョウが舞って、トンボが飛んで、カニがいて、そういう地球を維持してほしいので、自分にできる環境にいいことを、ひとつ、ふたつやっと思いしました。ありがとうございました。

K.A

J.S

ホタルがいっぱい、たくさん見れて楽しかった。

生まれて初めてのホタルで感動しました。ありがとうございました。

K.T

T.A

6 年前に横浜から引っ越してきました。家の近くに、こんなホタルが舞う素敵なところがあるのが、大変感激しております。今日は雨でしたけど、思ったよりもたくさんホタルが飛んで、本当に良かったと思います。ありがとうございました。

子どもたちにホタルを初めて見せてあげられて、嬉しかったです。ありがとうございました。

S.N

M.M

自分のグループは、外れてわからなくなってしまって、たぶん、別行動をとってしまったのかなと思います。すみません。ちょっと無責任な感じで。皆さんと一緒にホタルが見られてよかったと思います。また来年も、こんな形でできたらいいなと思います。

うちの小学校で、ホタルの幼虫を先生が育てているんですけども、実際に自然で観るのは私も初めてだったので、私も感動しました。帰って、早速、先生に撮れた動画を見せてあげたいと思います。ありがとうございます。

K.S**S.T**

ホタルが出てよかったです。それから、スタッフの皆さんがとてもきちんとしていたと思います。紙芝居とそれから絵本とクイズ。それから歌まで歌って、こういう観察会ってないと思いますよね。どうもお疲れさまでした。ありがとうございます。

今日はホタルの勉強もいろいろさせてもらって、しっかりとホタルをたくさん、光って飛んでいるのを見て、とても楽しかったです。

T.M**H.N**

皆さんご協力ありがとうございました。初めて絵本を読んだり、紙芝居をしたりしたのですが、みなさんに喜んでいただけてよかったと思います。また来年お会いしましょう。



ベisia三浦 2階に小網代の森インフォメーションスペースオープン!!



ベisia三浦の2階に、6月9日市民交流センターの開設に伴って、小網代の森インフォメーションスペースがオープンしました。そしてベisia店舗の駐車場とは別に多数の駐車可能な駐車場が設置され、小網代の森へ行く人も無料で利用できるようになりました。



多摩川干潟遠足 「河口干潟の生きもの」

開催日：2019年6月4日（火）

参加者：8名

小網代の干潟に足が踏み入れづらくなってしまい、「たまには、カニや貝に会いたいね」と長靴持参で多摩川河口まで足をのばした。京急小島新田駅から徒歩10分ほどで綺麗に改修された堤防のある川沿いに出る。キングスカイフロントと名付けられた、その一帯は国立医薬品食品衛生研究所だのアイソトープ協会だの川崎生命科学・環境研究センターだの、先端技術の研究所のピカピカの建物が並ぶ。「本当に干潟があるの?」という感じ。でも、殿町第二公園から土手を下りていくと、懐かしい干潟の匂い。アシ原では「ギョギョシ、ギョギョシ」とオオヨシキリの声。川の向こうには飛行機や大鳥居が見える。一歩干潟に足を踏み入れると、そこはカニたちの世界。よく見知ったコメツキガニ、チゴガニ、ヤマトオサガニ、アシハラガニ、アカテガニがうごめいている。

小網代にはいないトビハゼがいるというので探しに行った。姿をはっきり見るができなかったが、稚魚が水の中に勢いよく動く気配を感じた。逆に、小網代ではわんさかいて平気で踏み潰しているホソウミニナとウミニナがここには全くいない。東京湾にはほとんどいないそうだ。なぜ小網代にあんなにいるのだろうか。不思議だ。ついでに言うと、ハマガニもいないらしい。いつも見ていた普通が普通でないことを体感するって大事なことだと思った。

(浪本 記・写真)



空が広くて気持ちいいが、真夏並みの気温に少々バテ気味



アシ原の泥んこ道をジャブジャブ進む、懐かしい!

三浦半島の植物

野内眞理子さんの植物画から野草を中心に、三浦半島で見ることのできる植物をご紹介します。今号で紹介するのは 2011 年の作品からアジサイです。意外なようですが原産地は日本、関東地方の海岸に咲いていたガクアジサイが原種なのだそうです。

アジサイ(紫陽花) 2011 年 10 月 25 日



茅ヶ崎市開高健記念館と登山家榎有恒展

開高健の自宅を記念館として公開している。隣接のゆかりの人物館では登山家で、ヒマラヤの 8000 メートル峰 マナスル登山隊長を務めた榎有恒の企画展。

自宅の周囲は、美しい花木に包まれて植物園のようである。

5 分で茅ヶ崎海岸。富士箱根、大島、烏帽子岩、江の島の眺望が素晴らしい。シーサイドハイキングも楽しめる。茅ヶ崎駅から南へ 2 キロ、コミニティバス（1 時間毎）開高記念館前下車。

開館日 金土日と休日 開館時間 10 時から 18 時 入館料 300 円

榎有恒展は 9 月 29 日まで 電話 0467-87-0567

茅ヶ崎駅出札口近くに、市観光案内所がある。

小網代を詩う

変わっていても

中井 由実

あなたを案内して夏の小網代に来たのは
まだカニパトという名前ができた頃

あなたが暮らすオーストラリアの大地に比べて
なんてちっぽけな森か、とあきれていたのを
私は歩きながら思い出した

今は立ち入れない短い浜辺で
アカテガニの放仔観察よりも
波頭に光る夜光虫の方が

あなたの記憶に鮮やかなことが
おかしかった

私もよく覚えている夜光虫を
いつから見なくなったのか
本当はよく分らない

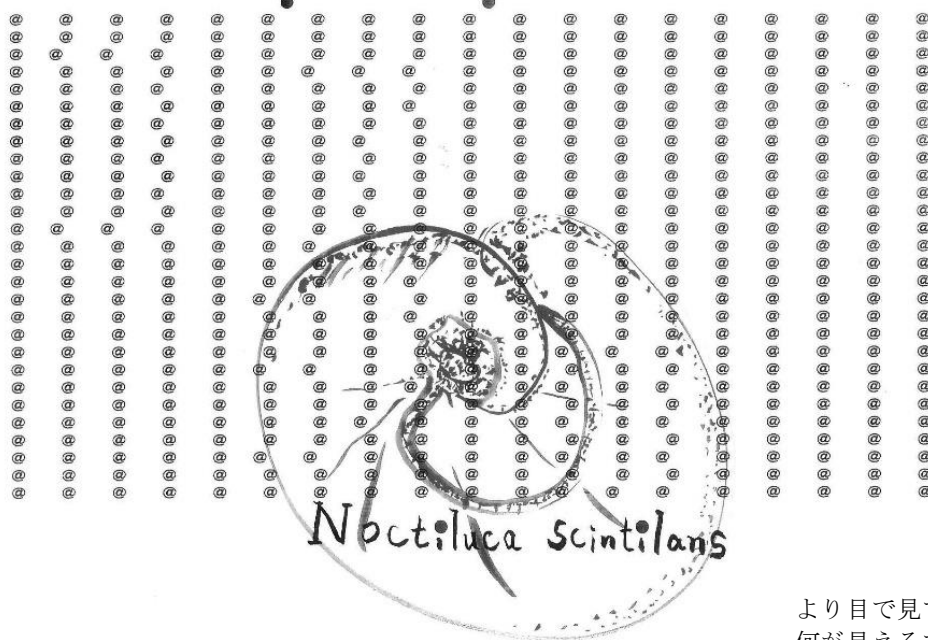
変わってしまったことは他にもあるんです、
そんな話をしながら中央の谷を下り
えのきテラスに着いたとき

あなたが「いい公園になりましたね」と言ったから
これで良かったんだ、

小網代は残ったんだもの

私は何度も何度も

自分にいい聞かせた



より目で見てください
何が見えるでしょうか？

答：ロシアン

芳醇なる森

中井 由実

谷の入り口を降り始めてすぐ
森には良い香りが流れていることに気付いた
馥郁たる花の香り
藤の季節はとづくに過ぎている
見上げても 斜面を透かしても
花の姿は無いのに

風に揺らぐ美しい香り
白い花だろうか
薄青の花だろうか
濃く 薄くどこまでも続く

森の深い不思議が
今日 また一つ

随想 小網代てんてん (35)

原始のままで — ヒザラガイ

須田漢一

かれらは、いつ見たつて、岩の窪みや隙間などにくっついて、動かない。突っついて、押しても、逃げない。ふてぶてしいのか臆病なのか分からない。硬い殻をまとうネムノキの果実みたいな細長いからだは、古生代の生きものに似ている。

軟体動物ヒザラガイ(膝皿貝、火皿貝)は最も原始的な種類で、その祖先はイモ虫みたいな形をしていたらしい。はじめは殻をもっていない。代わりに、からだから石灰質の針をたくさん立て、身を守っていたという。

やがて体表の針は互にくっついて、硬い殻になり、それが背中に連なって、現在のようなヒザラガイ形になったと進化史は語る。殻の基本的な化学組成は炭酸カルシウムで、外層は方解石、内層は硬い成分で出来ていて、横型のしつかりした殻板かくばんといわれるものを8枚もっている。こうした構造を見ると、とても原始的な生きもの

のとは思えない。

— 夜、潮が満ちてくると、ヒザラガイはまるで動いていないかのように、のろのろと這って歩き、岩に付いた藻などを掻きとる。歯舌しぜつと呼ばれる純度90パーセントの磁鉄鉱の歯はヤスリ状で、キチン質をベースにした小さな歯がたくさん並んでいる。その奥からは、新しい歯舌が次々に生まれ、微少な藻類をこすり取って食べる。やがて潮が引く頃は自分の棲み処に身を沈めて、動かない。

そこにある家の形は自らが岩を削ってつくったものか、ちょうどよい形のものを選んだのかは分からないが、岩にぴたりとはまって、素手で窪みから取り出すことは、とてもできない。

かつてアメリカ西部のインディアンは、ヒザラガイを「海の牛肉」と呼んで食糧にしていたらしい。特殊な道具を使って採ったのだろうが、ヒトにかかつては、ほとんどの生きものは為す術すべはない。

ヒザラガイは、ゆっくり、と少しづつ、地球上の地質に変化を与えている、といわれる。餌を探しに岩の上を移動したり、海藻を食べるとき

に、岩の一部を擦り剥ぐことを、太古の時代から世代を変え、何千年、何万年もの間、その単調な作業を繰り返して、地球表面に侵蝕作用を及ぼしている。自らが生きていく中で、飽きもせず、時に時を積み重ね、やがては大きな変化を与えている……。一面、それはすごい力だと思ふ。

ヒザラガイは今の形、食物、棲み処が、生きていくのに何の不満も不足もないので、体の構造や生活の仕方を変える必要はないのだろう。進化するだけが、生命をつなげていくのに適したやり方とは思えない。不都合がなければ、今のままでよいではないか。たとえ原始的と言われても、何ら意に介することではない。

潮間帯で毎日くり返される干満のリズムにさからわず、それに乗ってしまえば、ストレスも覚えなない。トリやカニなどの天敵の少ない夜間を選んで行動する — こうしてヒザラガイは何億年前の昔から絶滅もせずに、岩礁のメンバーとして、ニッチを占めているのだ。おれは、これだよ。その開き直った姿から、ねたましいくらい驚きを感じるのだ。

サロン小網代 相模原と座間の大風まつり

令和元年5月4日 祖父川精治

令和元年5月、10日間の超大型連休中の4日「みどりの日」と、5日「子供の日」の2日間。相模原市と座間市が、それぞれ競い合うように広大な相模川の河川敷公園で「日本一の大風祭り」が行われた。



相模原の大風

2日間で集う人達は凡そ10万人。

我が国最大級といわれ、両市とも会場は隣り合わせなので徒歩で「シバサクラ」咲く土手上を伝い歩いて2会場を同時に見ることができる。遥か遠くには、雄大な丹沢大山の青い山並みがすばらしい。

両市共に、自然の風速計として横一列に数多くの鯉幟を掲揚している。鯉の泳ぐ姿が横一列になるような、風速が必要といわれている。地元では、経験的に気温の上昇する午後の方が強い南風が吹くという。

強い風に助けられ、100人規模の人たちが一気に太い手綱を引くとゆらりと青空へ向けて上昇する。期待し待っていた見物客の大きな歓声がどっと上がる。残念ながら、私が出かけた初日の5月4日は強い南風が吹かず大

風は揚がらなかった。

再挑戦した翌5日には、両市とも大風は空高く舞い揚げたと座間市商工観光課の話であった。小型の3間風（18畳敷き）も含め全て文字は「令和」を採用するなど、今年は新時代にふさわしい特別な大風まつりとなった。新元号案が示された時期が遅かったので、大風の制作には大変なご苦労が多かったと思われる。

約1000キロ級の100畳敷き大風の文字は、その時代を表徴する文字が選ばれてきた。今年は、大風や他の小型風等全て墨黒々と新年号である「令和」が選ばれていた。初日4日は風向きの条件が悪く、夕方からは雷雨となり中止となってしまった。それでも、3間風（18畳敷き）を揚げることができ、会場は歓声拍手喝采に包まれたといわれる。

江戸時代の昔は、個人的に子供の誕生を祝い、また端午の節句に子供たちの成長を願って、空地や田畑で揚げた祝い風が始まりといわれる。やがて豊作祈願、さらに若者たちの意志や希望を文字に現わした風まつりとして規模が拡大していった。

しかし、社会情勢の変化などから技術の継承や会場の確保などが危惧されるようになり、現在では「相模の大風まつり実行委員会」によって開催が継続している。

製作期間は約3ヶ月間も要する大風作りには、小中学生も参加しているという。最大の注目は大風に描く文字題字のことで、市民から応募して選定する。時には元字を市長が直筆、それを見て大風文字に描きなおすこともあった。

過去には、両市それぞれに大風にふさわしい名が選ばれ祝輪、祝政、隼風、福風、翠風、葵翔、凱風、等が使われてきている。

大風の仕様

百畳敷き8間四方14.5m×2、 重さ1000キロ、
綱の長さ200メートル、 綱の直径3~4センチメートル、
引手80から100人、 必要な風速は南風10~12m、
製作期間3ヶ月

昭和57年神奈川の祭り50選、平成3年国の無形民俗文化財に指定されている。

会場の相模川河川敷公園へは、JR相模線相武台下駅下車1.2キロ 徒歩約20分で標識がある。

また、同じ相武台下駅から広いバス道を北へ徒歩15

分。相模原市相模の大風センターがあり、常時大風が展示掲揚され、他には各種数多くの風が見学できる。



座間の大風

こあじろの森くらぶ NEWS

スタッフの活動

- 2019.05.26(日) 通信 No.16 印刷・発送 スタッフ会議(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)
 スタッフ会議
 2019.06.02(日) 第 17 回交流会「ホテルを見に行こう! 2019」
 2019.06.04(火) 多摩川干潟遠足「河口干潟の生きもの」
 2019.06.15(土) 第 18 回交流会「地衣類」下見
 2019.07.16(火) スタッフ会議(於 横須賀市立 市民活動サポートセンター)

第4回 こあじろの森くらぶ総会のお知らせ

2018 年 7 月から 2019 年 6 月までの活動報告並びに次年度の活動計画を提案します。

第二部では会報に随想を連載して下さっている、会員の須田漢一さんが撮影された生きものや自然の写真をスライドでご紹介します。どうぞご参加いただき、くらぶのこれからのためにご指導下さいますようお願いいたします。ご欠席される方は、同封の委任状をお送りください(恐れ入りますが切手代をご負担ください)。

日 時 2018 年 8 月 25 日(日) 13:30~14:30

会 場 南下浦市民センター 2 階 研修室(三浦海岸駅徒歩 1 分)

一 部 議 事

二 部 スライドショー「森と海辺と大地から」 須田漢一

- * 総会終了後時間と天候が許せば、一緒に秋の気配が漂い始めた森を歩きたいと思います。今年の森は私たちにどんな顔を見せてくれるでしょうか。

荒崎方面 アカテガニ遠足のお知らせ

愛し恋しのアカテガニさんたちに、今年も逢いに行きましょう。ソレイユの丘公園の中を^{つくだあらし}、^{くんばま}佃 嵐崎から栗谷浜漁港へ、ちょっと冒険心をくすぐられるコースです。ちっぽけなアカテガニが必死で次の世代へと生命を繋いでゆく姿に、生きることの大切さを思い、明日の元気を補給する夏の一夜。脚力に不安のある方には、近道コースをご案内します(小さなお子様には保護者をご同行ください)。

開 催 日 : 2018 年 8 月 17 日(土) * 荒天の場合は中止します

お待ち合わせ : 15:50 三崎口駅前 16:05 発車のソレイユの丘直行バスに乗ります(終点下車)
 時間に余裕を持ってお集まりください。

- * 車でお越しの方はソレイユの丘入口ゲート付近で 16:20 くらいにお待ちします。
 (駐車料金は 16:00 以降無料)

解 散 : 20:00 頃現地解散

持 ち 物 : 長靴、懐中電灯、軍手、虫よけ、軽食、飲み物、
 * 危険防止のため荷物はリュックサックなど両手が空くものにまとめてください
 * 濡れても大丈夫な服装、または着替えをお仕度ください。

対 象 : 「こあじろの森くらぶ」会員とそのご家族、ご友人

- * 保険はありませんので、ご参加は自己責任でお願いします。

第 18 回交流会「いつでも、どこでも、みんなの地衣類」開催決定!!

10 月 20 日(日)、地衣類の専門家を講師にお招きして交流会を実施します。

午前中座学、午後からは白髭神社付近で観察。定員 20 名予定。

人数把握のため参加希望者はご一報ください(第 1 次集約 8 月 25 日)。

詳細は 9 月発行の通信第 18 号にてお知らせします。

こあじろの森くらぶ通信 No.17

2019 年 7 月 28 日発行

小網代の森くらぶ Koajiro Woods Club

所在地 : 〒238-0101 神奈川県三浦市南下浦町上宮田 1528-75

連絡先 : info@mori-club.com (高橋) ☎046-889-0067 (仲澤)

URL : http://www.mori-club.com